

音楽の生産・流通・消費におけるコンフリクト

研究プロジェクト報告会（2009-04-18） 伊東信宏

研究の目的、対象、方法

音楽における現代的コンフリクトの諸相を、生産・流通・消費の三つの局面に整理し、その様相を明らかにすること。

- ・ 音楽の生産に関して、諸民族混住地域における音楽の帰属をめぐるコンフリクトについて中南米と東欧の事例を中心に調査・研究を進める
- ・ 音楽の流通に関して、ネットを介してのやりとりやコピーが容易になったことなどにより、19 世紀以来のパラダイムの流動化が始まっている、音楽の著作権に関する問題について、検討する。
- ・ S 音楽の消費に関して、フェアトレードとパラレルな観点から、新しい音楽消費の可能性として提唱されつつある「フェアミュージック」という概念について、調査を進める。

メンバー

研究代表者 伊東信宏 文学研究科准教授

連携研究者 奥中康人 文学研究科招へい研究員

増田聡 大阪市立大学准教授

川端美都子 日本学術振興会特別研究員

研究会

- ・ 川端美都子「ジューバン・アイデンティティ：マイアミはディアスポラか、それとも新しい祖国か？」（豊中文13教室、2008年6月13日）
- ・ 増田聡「「声とテクノロジーをめぐるコンフリクト：初音ミクとPerfumeについて」（豊中文13教室、2008年11月7日）
- ・ 奥中康人「生きている幕末鼓笛隊：西洋音楽はどのように土着化したか？」（21世紀懐徳堂スタジオ、12月5日）

演奏会・講演会・シンポジウムなど

◆ パトリツィア・コパチンスカヤ

at 阪大

2008年11月30日(日)午後4時～5時半

大阪大学豊中キャンパス イ号館

21世紀懷徳堂多目的スタジオ

約100人の聴衆

プログラム

G. エネスク：《幼い日の思い出》より「ミンストレル」

J. S. バッハ：《無伴奏ヴァイオリンパルティータ》第2番より「シャコンヌ」

J・サンチェス=チョン：《クリン》



◆ 関口義人講演会

2008年12月4日(木)午後5時～6時半

21世紀懷徳堂 多目的スタジオ

論題

「トルコのジプシー～その音楽と現在」

約30名の参加者



◆ 国際シンポ「境界としてのロマ（ジプシー）とその音楽」

2009年3月26日

大阪大学中之島センター 7Fセミナー室

イアン・ハンコック

(テキサス大学オースティン校)

On the origin of the “Gypsy” literary
image

スヴァニボル・ペッタン

(リュブリャナ大学)

Romani musicians as cultural

mediators: Patterns of interaction and representation in Kosovo



コメンテータ：ロベルト・ガルフィアス（カリフォルニア大学アーヴァイン校、）

+ 岩谷彩子（広島大学）

進行：寺田吉孝（国立民族学博物館）+ 伊東信宏（大阪大学）

約30名の参加者

調査など

・奥中康人 9月13日～16日 山形、上山藩鼓笛楽保存会調査（14日）と早稲田大学演劇博物館（13日&15日）における調査

・川端美都子 7月15日に岐阜の八百津町にあります杉原千畝博物館に、日帰りで調査に。

・伊東信宏 12月23日 ウィーンにおいてFairmusicのオフィスを訪問。

12月28日 ブルガリア、リブノヴォにて結婚式の音楽の調査。

成果（一部のみ）

学会賞等各賞の受賞状況等

・奥中康人：第30回サントリー学芸賞、芸術・文学部門受賞

『国家と音楽 伊澤修二が目指した日本近代』（春秋社2008）

国際学会での発表（基調講演・招待講演等）状況

・伊東信宏「ブルガリアの『チャルガ』=ポップ・フォークにおけるロマの位置」（人間文化研究機構連携研究年度末シンポジウム「パフォーマンスと文化：ユーラシアと日本における交流と表象」（2009年3月27日、国立歴史民俗博物館）

・Mitsuko KAWABATA “The Challenge of the Contemporary Argentine Malambista: Confronting Globalization and Tradition” (Society for Ethnomusicology, Middletown, Wesleyan University, October 25, 2008)

発表論文名・著書名（一部のみ）

・ITO Nobuhiro, Az utolsó hiányzó láncszemek : Bartók: Negyvennygy duó, 8. sz. – a „Tót nóta” eredeti népzenei forrása, Parlando, 50. év-folyam, pp.7-10, 2008.

・伊東信宏『中東欧音楽の回路：ロマ・クレズマー・20世紀の前衛』、岩波書店、2009年3月、全219頁。

・川端美都子「舞台表演におけるガウチョの表象とアルゼンチン・アイデティティーの変化と持続」大阪大学大学院文学研究科博士論文

・増田聡、「データベース、パクリ、初音ミク」、『思想地図』Vol.1（東浩紀、北田暁大（編））、東京：NHK出版、pp. 151-176、2008年

・増田聡、「電子楽器の身体性——テクノ・ミュージックと身体の布置」、山田陽一（編）『音楽する身体——〈わたし〉へと広がる響き』、京都：昭和堂、pp. 113-136、2008年

・増田聡「『音楽のデジタル化』がもたらすもの」、東谷護（編著）『拡散する音楽文化をどうとらえるか』、東京：勁草書房、pp. 3-23、2008年

・奥中康人『国家と音楽 伊澤修二が目指した日本近代』（春秋社、2008）